

- 世界第3位の排他的経済水域を持つインドネシアにとって、水産業の振興は、国民の食糧自給及び、所得の低い地方部における雇用創出・所得向上の観点から重要。
- 今般、インドネシア全土8カ所の漁港について、FS及び詳細設計を実施し、その結果、重要度が高い漁港については、整備・改修も併せて実施する。
- これにより、水産物の水揚げ量の増加及びコールドチェーンを通じた品質の向上が図られ、インドネシア国民へのタンパク質の供給や、格差の是正に寄与する。同時に、プラボウォ政権が掲げる食糧自給にも貢献する。

事業の概要

アチェ州バンダアチェ、リアウ州バガンシアピアピ、リアウ諸島州ナツナ、ジャカルタ特別州ジャカルタ、中部ジャワ州ペカロンガン、北スラウェシ州リクパン、パプア州ビアク、南パプア州メラウケの8漁港において、FS及び詳細設計を実施。

実施結果から、優先度が高いとされた漁港につき、防波堤、水揚げ用栈橋や水産加工場、冷凍・冷蔵設備等の整備・改修を実施。

【参考】対象案件の限度額・供与条件

限度額：155億4,500万円
 金 利：1.8%（コンサルタント部分は年0.2%。）
 償還期間：30年（10年の据置期間を含む。）
 調達条件：アンタイト

協力対象の漁港位置図

